

渡辺復興大臣茨城県訪問ぶら下がり会見録
(平成31年1月9日(水) 15:56~16:00 於)北茨城市)

1. 発言要旨

本日は東日本大震災によって大きな被害を受けた潮来市、鹿嶋市、大洗町及び、ここ北茨城市を訪問し復興大臣就任の挨拶と現地視察をいたしました。

潮来市では原市長、鹿嶋市では錦織市長とお会いして、液状化対策の視察を行いました。いずれにおいても、対策は順調に進捗している、そういった旨のお話を伺っております。

また、大洗町では小谷町長、北茨城市では豊田市長とお会いをいたしまして、津波対策の視察を行い、津波被害の状況とその後の復興の取組についてお話を伺ったところでございます。

視察を通じて、大震災が茨城県にもたらした被害に改めて思いをいたしました。同時に、その取組が力強く、かつ着実に進んでいることを実感いたしました。

引き続き、現場主義のもと、現地に足を運び、一日でも早く復興の実現に向けて全力で取り組んでまいりたいと思います。

私の方から以上でございます。

2. 質疑応答

(問) ハード、ソフトの両面、これから具体的にこれはやっていかなくはないかという部分がもしあれば、教えていただけますか。

(答) まず、ハードの部分について、避難道路の整備を着実に進めていかなければなりませんし、また防潮堤の整備も進めていかなければなりません。これも、復興・創生期間があと2年強でありますので、その間にやるべきことは全てやり通すと、そういった思いで、私の方は進めてまいりたいと思います。

また、ソフトの部分でありますけれども、観光関係については、やはり風評被害というものもでございます。この茨城県においても、その風評被害に対してどのように対応していくか、こういったものをしっかりと取り組んでまいりたいと、そのように思っております。

(問) 首長さんからの要望の中で、何か特徴的なものはあったでしょうか。

(答) 例えば液状化の問題については、基本的にはですね、もう既に対策はとっておりますけれども、その進捗状況を1年間見ているということでありましたので、これは今後もしっかりと見ていきたいという話がありました。

そしてまた、今回のこちらの津波・地震の関係についてはですね、

やはり港の整備が大変重要だというふうに思いました。港が、やはりその地域において大変重要な役割を担っているということでもありますので、この港の整備関係にしっかりと取り組んでいるという町長さん、そしてまた市長さんのお話でありましたので、こういった点についてはですね、しっかりと応援をしていきたいというふうに思います。

(問) 復興・創生期間が終了した後の復興の在り方について、今年3月末までに在り方を示すというふうにあったかと思うのですが、今回はそのための視察ということなんでしょうか。

(答) 私自身、被災地というところを全て回りたいという思いで、千葉県や今回の茨城県、そして青森県も回ってまいりました。

今回の視察はですね、復興・創生期間後の状況を云々(うんぬん)ではありません。私が実際に訪問して、その復興の状況をこの目で確認をしたいというのが趣旨でございます。したがって、復興・創生期間後の問題についての取組ということではありません。

ただ、言えることはですね、その2020年度までの期間中に、確実にそれを進めていただきたいと。その状況をこの目で確認をさせていただきたいということで、本日お伺いしたところでございます。

(以 上)